

# 非常用ディーゼル発電機 タービンブレード非破壊検査技術

## 工程短縮と低コスト化実現

### 概要

各種設備の健全性確認に必要な非破壊検査技術としてポータブル3Dレーザースキャナーによる形状変化測定とフェイズドアレイ法および垂直法による亀裂・キズ等の有無を確認するための超音波探傷技術を組み合わせた非破壊検査を行うことで、設備点検工程の短縮と費用の低減が可能となります。

### 特徴

#### ● ポータブル3Dレーザースキャン

- ローターにタービンブレードが取付いた状態で測定可能
- ±0.05mmの測定精度を有し、基本寸法との比較により形状変化等を判断可能



スキャン試験風景

#### ● フェイズドアレイ及び垂直探傷

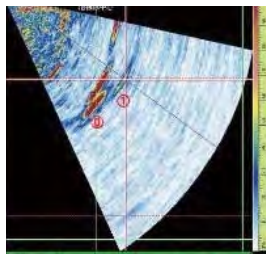
- タービンブレードの構造に適合した探触子を開発
- タービンブレードをローターから取外すことなく超音波探傷による亀裂等の診断可能
- 点検工程の短縮と点検費用削減に貢献



探傷試験風景(フェイズドアレイ法)



測定映像(例示)



測定画像(例示)



探傷試験風景(垂直法)

### 導入実績

- 東京電力ホールディングス(株) 柏崎刈羽原子力発電所さま (試験段階)
- 東京電力ホールディングス(株) 福島第二原子力発電所さま (試験段階)

製品・サービスについてのお問い合わせは

原子力事業部 原子力営業担当  
TEL : 03-6372-7190

東京パワーテクノロジー株式会社  
〒135-0061 東京都江東区豊洲五丁目5番13号  
<https://www.tokyo-pt.co.jp>